

第5回 国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会

議事概要

1. 日 時：平成27年3月23日（月）10:00～12:00

2. 場 所：中央合同庁舎8号館6階 623会議室

3. 出席者：（敬称略）

安達（副座長）、関口、末廣、谷藤、恒松、林、村山の各構成員、原山総合科学技術・イノベーション会議議員

（オブザーバー）文部科学省 榎本参事官（情報担当）、長澤学術基盤整備室長、西川地球観測推進専門官、経済産業省 渡邊研究開発課長、日本学術振興会 渡邊理事、科学技術振興機構 大竹理事

（事務局）森本政策統括官、中西審議官、中川審議官、匂坂参事官、真子補佐、須田補佐

1. 議事

(1) 事務局説明

事務局より、報告書（素案）について説明があった。

(2) 主な意見等

事務局説明を踏まえた意見交換が行われた。

○ 論文と研究データを併せてリポジトリへ保存するケースも増え始めており、研究データも査読対象とする場合も見受けられるようになってきた。将来的には論文よりも研究データが先に公開されるケースがありうるかもしれないが、研究データの公開時期については、研究分野によって大きな差異が生じることが考えられる。

○ 研究データをオープンにすることでイノベーションにつながり、研究データの整備が進み、さらにデータセットを行う人材の貢献が認知されるようになることが望ましい。また、研究者自らが研究データを公開することで科学コミュニティにもメリットが生じ、これを通じて社会が恩恵を受けるという循環を生み出す仕組みとなるように促していく必要がある。

○ 研究データの範囲や知的財産権もイノベーションに関連する事項なので、実施方針、実施計画を策定する上で、留意すべき点である。

- CSTIが各省庁の進捗状況をフォローアップする際に、旗振り役として中核的な役割を担うことを明示し、司令塔機能を発揮することが望ましい。
- 関連省庁等が実施計画を検討するにあたって、報告書が指示文書になると各省庁が取り組む際の自由度が狭まる可能性があるが、原案はバランスよく整理されている。
- 本検討会で示される報告書はある種のスタート地点であり、ステークホルダーがオープンサイエンスの理念に納得して賛同できるよう、内閣府及びCSTIが今後も継続的に検討することを明記いただきたい。
- 第5期科学技術基本計画に確実に反映されるよう事務局で手続きを進めていただきたい。
- 来年度4月以降もフォローアップのする体制を作って、関係省庁で議論されていることを確認できるようにする。報告書が改定される点はあるのではないかと考えている。

2. その他

- 次回は3月30日月曜日15時から開催する。